

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3070103084
法人名	社会福祉法人 安原福祉会
事業所名	あいの里悠々
所在地	〒640-0342 和歌山市松原115番地 (電話) 073-479-5111

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年7月15日	評価確定日	平成21年9月3日

【情報提供票より】(平成 21 年 6 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 15 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤 19 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	15.7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨スレート葺き 造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	16,500 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 120,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有() 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(6 月 1 日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	10 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.4 歳	最低	66 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	寒川内科医院、はぶ内科医院、田井歯科医院、中谷病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

愛情をもって寄り添う介護を推進する、安原福祉会を法人に持つ当該ホームは池のほとりにあり、広い敷地と緑に囲まれたすばらしい景観の中に位置しています。実のなる木をたくさん植え、野菜作りを通して、利用者には収穫の喜びを味わってもらっています。地域の山の名をユニット名とし、小学校の芝の植え付けに利用者と職員がボランティアで参加したり、地域の防災訓練に参加を予定する等、地域の一員としての役割を担い、地域と共に歩んでいます。また職員の離職はほとんど無く、ユニット間での異動を行わず固定することで、職員間の信頼関係を構築し、利用者との馴染みの関係にも繋がっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の外部評価を受け、運営推進会議で避難訓練の報告を議題としたり、利用者の水分確保のための記入方法を検討するなどの改善が見られます。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今年度は各ユニット会議の中で項目ごとに見直し、職員からの意見を各リーダーが取りまとめて作成されました。まとめられた自己評価票は職員に回覧する等、全員で取り組まれています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2カ月ごとに、家族、自治連合会長、民生委員、地域包括支援センター職員、法人職員、管理者等が参加して小規模多機能事業所と合同で開催されています。会議ではホームからの状況報告の他、家族からの意見や介護保険・地域福祉等について話し合われるなど、有意義な会議となっています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年に何度か行事を兼ねて家族会を開催し、家族同士で話し合う時間を設けたり、直接意見を聞く機会を確保しています。また苦情箱を設置したり、苦情窓口を書面に掲載し、家族が意見を言いやすいよう配慮されています。出された意見は会議でも職員に報告し検討され、運営に反映させています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人理事長が民生委員でもあり、情報を得て、神社の餅まきや地域の行事に参加し、法人の夏祭りには地域の方を招待しています。また利用者と一緒に小学校の芝の植え付けや地域貢献事業にボランティアで参加しています。近隣の幼稚園とも交流があり、園児の訪問を受け、利用者と共に楽しい時を過ごしています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「愛・信頼・笑顔」をもとに、ホームの行動指針を作り上げている。本人本位で穏やかな日々を、地域の中で職員と共に暮らし、地域とも共存を図ることを目指した内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念、行動指針は各ユニットのリビングに、利用者・職員のみならず来訪者からもよく見えるように掲示されている。理念は各ユニット会議の中で振り返りや確認を行うことで、日々のケアに活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人理事長が民生委員でもあり、情報を得て、神社の餅まきや地域の行事に参加し、法人の夏祭りには地域の方を招待している。また利用者と一緒に小学校の芝の植え付けや地域貢献事業にボランティアで参加している。近隣の幼稚園とも交流があり、園児の訪問を受け、利用者と共に楽しい時を過ごしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価を受け、運営推進会議で避難訓練の報告を議題としたり、利用者の水分確保のための記入方法を検討するなど、改善されている。また今回の自己評価票は各ユニット会議の中で項目ごとに見直し、職員からの意見をリーダーが取りまとめて作成された。まとめられた自己評価票は職員に回覧している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月ごとに、家族、自治連合会長、民生委員、地域包括支援センター職員、法人職員、管理者等が参加して同法人内の他のグループホーム、小規模多機能事業所と合同で開催されている。会議ではホームからの報告の他、家族からの意見や介護保険・地域福祉等について話し合われるなど、有意義な会議となっている。		

グループホームあいの里悠々

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは、申請時に立ち寄り何かあれば相談したり、運営推進会議への出席を働きかけたりしている。また利用者が市の事業であるサービスの情報をもらい、利用者がそのサービスを受ける事が出来るよう支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らしや健康状態は頻繁にある家族の来訪時に報告し、なかなか来られない家族には定期的に手紙を書いて様子を知らせている。また2か月に一度、ユニット毎に利用者の写真を載せた「悠々新聞」を配布している。立て替え金の明細は毎月の請求書を送る際に一緒に郵送し、領収書も同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に何度か行事を兼ねて家族会を開催し、家族同士で話し合う時間を設けたり、直接意見を聞く機会を確保している。また苦情箱を設置したり、苦情窓口を書面に掲載し、家族が意見を言いやすいよう配慮されている。出された意見は会議でも職員に報告し検討され、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職はほとんどなく、ホームでは利用者との馴染みの関係を大切にするために職員を固定化している。管理者やリーダーは、シフト面で職員の働きやすさを優先し、声かけをしたり、話を聞いたりしながら精神面でもフォローしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の習熟度に応じて管理者が指名し、外部研修等を受講している。研修後は報告書と資料は閲覧用として残り、ユニット会議の中で他の職員に報告し情報を共有している。また日々の実践の中で、介護方法や個々のケースについて検討し、スキルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会の会合等に参加し意見交換する等、交流を図っている。勤務体制等により、職員間での交流にまでは至っていない。	○	管理者のみならず、職員が他の同業者と交流することで悩みや思いを共有でき、日々のケアの振り返りや自信にも繋がる。さななる質の向上のためにも、相互見学や交換研修等の取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、まず家族が見学にこられ、気に入ってもらえたら本人と一緒に見学され、他の利用者とお茶を共にするなどして過ごしてもらっている。また、職員は必ず自宅を訪問し、家族から生活歴や日々の暮らしについての情報を聞き、スムーズに入居できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々コミュニケーションを取るなかで、礼儀から吉凶の方角まで、さまざまな生活の知恵を利用者から学ばせてもらっている。畑作りをし、歌を歌い、時には寝付けない利用者のそばで寄り添う等、常に一緒に過ごすことで信頼関係を構築されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と職員が1対1でゆっくり話をする機会を確保したり、表情や態度、行動から思いを把握している。得た情報はセンター方式のアセスメントを活用し、会議等でも話し合わせ情報の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	来訪時や電話で家族の希望を聞き、毎月開催されるユニット会議にて話し合わせ、介護計画を作成している。会議に出れない職員の思いや、日々の気づき、主治医の意見等はケアマネージャーが聞き取り記録に残すことで、より多くの意見が反映されたケアプランとなっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは3カ月毎にモニタリング、評価され、ユニット会議の際にカンファレンスを行ない見直しされ、継続の場合でも6カ月毎の更新がなされている。状態に変化がみられる場合はその都度見直し、ケアプランを変更されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が行けない時や車椅子の利用者の通院介助を行っている。利用者の希望による嗜好品の買い物同行や、行きつけの美容院への外出を支援している。入浴拒否が見られる利用者と銭湯に行くなど、柔軟な対応を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者や家族に希望を聞き主治医を決めているが、以前からの主治医を継続されている利用者についても往診をお願いしている。月2回のホーム医の往診の他、歯科、皮膚科、整形外科は必要時に往診してもらい、家族の希望による訪問リハビリも受けている。ホーム医との24時間連携体制と訪問看護師の定期的な来訪により、医療面での安心が保たれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームではターミナルケアの経験があり、出来る限りのことは行う方針である。重度化した場合には、主治医の協力のもと、家族と職員が何度か話し合う機会を持ち、本人にとっての最良の方法を検討している。病院からの退院も、医療行為が必要ない場合には受け入れている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の呼び方は一人ひとり家族に聞いて、本人にとっての心地よい呼び方を心がけている。また介助の際にも耳元で話をするようにし、プライバシーに配慮している。個人のファイルは各ユニット事務所の鍵付きの書庫に保管され、日々の記録も他の目に容易に触れないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の起床、就寝はそれぞれに違い、朝食を早くしたり遅らせたり個々に合わせた支援をしている。朝から畑仕事をしたり、広告を広げて読んだり、自分の飲むお茶を自分で作ったりと、決まりはあるが、利用者それぞれのペースに合わせた支援を心がけている。		

グループホームあいの里悠々

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日担当職員は出勤後に冷蔵庫を見て、利用者に希望を聞き献立を立てている。利用者と職員は買い物、下ごしらえ、片付け等一緒に行かない、各テーブルには必ず職員が付いて、一緒に食事を取っている。庭で収穫された野菜が食卓に上り、会話を弾ませている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	リフト浴が用意されたユニットもあり、利用者は11時頃から16時の好きな時間帯に入浴している。毎日入浴される利用者もあり、2～3日に一度は入浴できるよう支援している。入浴拒否が見られる利用者には、職員が交代して声かけしたりタイミングを計るなど工夫して入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや掃除、ゴミ捨て等の役割を持ってもらい、梅干しや味噌作りを職員と一緒にこなったりと、利用者になるべく活躍できる場を提供している。また広い敷地を利用して、菜園での野菜作りや実のなる木を栽培し、季節の野菜や梅、柿、栗等収穫することが楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣や敷地内の散歩は日課となっており、広い敷地内の藤棚でお茶を楽しむこともある。食材や嗜好品の買い物、ドライブ、行事としてマリーナシティや四季の郷公園へ出かけたりしている。時には、回転ずし等外食にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解し、日中の施錠は一切せず、その分職員が意識してケアに当たっている。出ていくことを止めるのではなく、一緒に出かけることで落ち着いてもらえるよう配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行っており、1回は消防署立ち会いのもと、消火器の使い方講習を受けている。またホームでも夜間を想定して自主訓練を行ない、雨で中止になったが、地域の防災訓練にも利用者と一緒に参加を予定していた。地域の消防団とも連携が取れており、何かあれば駆けつけてくれることになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食ごとにチェックリストに記載している。また水分確保は重要であるとし、食事以外で摂った水分量をその都度記録し、少ない場合は水分補給を促している。食事は利用者の状況に合わせて、食べやすいように刻んだり、とろみをつけたり、ミキサーにかけて提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな池のほとりにあり、広大な敷地には実のなる木や藤棚、菜園があり、各ユニットのベランダも広く、居ながらにして素晴らしい景観を望め、いつも季節を感じることが出来る。リビングも清潔で明るく広々として、ソファや和室等、寛ぎのスペースも確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には全室トイレ、洗面台、クローゼットが設置され、ベッドも用意されている。絨毯や畳を敷いている利用者もいて、自宅よりタンス、テレビ、オーディオ、こたつ、冷蔵庫、家族の写真等馴染みの物を持参され、居心地良く過ごされている。また居室は植物の名前がついており、職員が表札や利用者の写真を飾り、自室がわかる配慮もなされている。		